

施工手順 ①

1 素地調整



ほこりやゴミ、突起物などを清掃・撤去する。



著しい汚れは漏水に、配慮し高圧洗浄などで撤去して下さい。



下地処理では必要に応じ、下地調整剤などで下地処理を行って下さい。



下地処理完了

2 プライマーの施工



施工間隔 次工程のブルーロンバリューを塗るまでの時間。
乾燥時間とタイムリミットです。

5~15℃	4~72時間
15~25℃	3~72時間
25~35℃	2~72時間

施工間隔が短かすぎた場合、フクレ、剥離の原因となります。
施工間隔が開きすぎた場合は必ず艶がなくなるまでサンディング、清掃を行なった後に再度プライマーを塗布してください。

※塗面積は0.2kg/m²です。
例：4kg=20m²

施工手順 ②

3 プルーフロンバリューの施工



主剤と硬化剤を **1 : 3** の比率で
調合して下さい。

攪拌機を使用し、**3分間**しっかりと
攪拌します。

調合後の施工（1層目）は**40分以内**に
完了させてください。



防水材の施工(1層目)



防水材の施工(2層目)

1層目と2層目の施工間隔は
18~72時間です。（気温23℃時）

2層目の施工の際も、
調合・攪拌・40分以内での施工完了
をしてください。

※塗面積は下記表を参照してください。
塗り厚により変動します。

塗り厚	工程	プライマー	プルーフロンバリュー 1層目	プルーフロンバリュー 2層目	トップコート
2mm厚		プルーフロンプライマー-S 0.2kg/m ²	プルーフロンバリュー 1.4kg/m ²	プルーフロンバリュー 1.4kg/m ²	プルーフロンGRトップ 0.2kg/m ²
3mm厚			プルーフロンバリュー 2.1kg/m ²	プルーフロンバリュー 2.1kg/m ²	

4 トップコートの施工

A液とB液を**5 : 1**の比率で
調合して下さい。

攪拌機・ミキサーを使用し、**1分間**
しっかりと攪拌します。

調合後の施工は**4時間以内**に
完了させてください。



※塗面積は0.2kg/m²です。
例：A液5kg + B液1kg = 30m²

「ブルーフロン防水工法」をご採用いただいたお施主様へ（取り扱いとメンテナンスのお願い）

■ウレタン塗膜防水材ご使用上の注意事項

- ①防水層は可燃物ですので、火気は絶対に使用しないでください。また、煙草の吸殻の投げ捨てや花火なども厳禁です。
- ②防水層の上にガソリンや溶剤、不凍液などをこぼした際は直ちに除去してください。防水層が軟化し、フクレや剥離が生じます。
- ③防水層の上に人工芝を施工することはお勧めいたしません。ご使用になる場合は「置き式」の方法でお願いします。
- ④防水層の上で重い箱などを引きずったり、角の鉄材などの損傷を与える物を落とさないでください。防水層の剥離や損傷を受けます。
- ⑤防水層の上では、防水層を損傷する恐れのある履物（ハイヒールやスパイクシューズなど）での歩行はしないでください。
- ⑥防水層の上に椅子やテーブルなどを置く場合、脚をゴムキャップなどで保護してください。また、長期間にわたり重量物を設置する場合は養生ゴム板（3mm程度）や角を丸くしたベニア板などを下に敷いてください。同様に高熱を発生する器具や物などを直接設置しないでください。また、カッターなどの鋭利なもので傷をつけないでください。
- ⑦防水層の上でゴルフの練習や一輪車、ローラースケートなどの練習は止めてください。クラブや車輪で防水層を傷つける恐れがあります。
- ⑧防水層の一般的な汚れの清掃の際は中性洗剤（クレンザーは不可）を使用の上、モップなどで行なってください。また、清掃の際には水で濡れていますので、スリップなどによる転倒事故に充分注意してください。
- ⑨防水層の上に醤油や酢などをこぼした場合は床面に染みつきやすいので、直ちに拭き取って水洗いを行なってください。
- ⑩防水層の上にマジックインキなどの油性筆記具で書かないでください（防水層面に染みつきやすく取れません）。また、防水層の上では塗料や強いアルカリ性や酸性の薬剤、洗剤は使用しないでください。
- ⑪防水層の上で犬や鶏などの家畜を飼育しないでください。
- ⑫クーリングタワーの防藻剤や殺菌剤などの種類によっては、防水層に損傷を与えますので注意してください。

「ブルーフロンシリーズ」をご使用いただく業者様へ（取り扱い上の注意事項）

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合はABC粉末消火器を用いてください。水は使用しないでください。
- ブルーフロンバリュー、ブルーフロンバリュー NS、ブルーフロンエコ、ブルーフロンエコ目止材、ブルーフロンエコNS、ブルーフロンエコMID、ブルーフロンエコDX、ブルーフロンエコDX NS、ユータックFエコは主剤・硬化剤（A液、B液）を混合し、容器中にそのまま放置しますと急激に発熱し、危険な状態になることがありますので、仕様書の手順を守ってください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行ない、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は、直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 塗料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください（偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります）。
- 取り扱い後は手洗いおよびうがいを充分に行なってください。
- 目に入った場合は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じ医師の診察を受けてください。
- 保管は必ずフタをして、直射日光の当たらない場所に保管してください（水系塗料は凍結を避けてください）。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 標準色以外をご指定された場合、褪色が速い場合や塗膜性能が低下する可能性があります。
- 環境対応製品は、環境に配慮した材料を用いていますが、ご採用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 詳細は警告ラベル、または安全データシート（SDS）をご参照ください。

■ブルーフロンシリーズの施工上・取り扱い上の注意事項

- ①気温5℃以下、40℃以上、湿度85%以上の場合での施工は避けてください。
- ②下地のレイタンス、砂、ほこり、ゴミは完全に除去してください。
- ③ブルーフロン防水層の液相分離が見られる場合は、攪拌機を使用し充分に攪拌してください。
- ④降雨や降雪が予想される場合は、施工を行わないでください。
- ⑤ブルーフロン各種の開封後は当日中に使用してください。
- ⑥下地に素穴がある場合はピンホールが発生する場合があります。適切な下地処理を行なってください。
- ⑦冬季は硬化速度が遅くなります。施工間隔は充分に注意してください。

*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。